# Swiftの Observationフレームワークによる 値の監視

宇佐見公輔 / 株式会社ゆめみ 2023-12-13

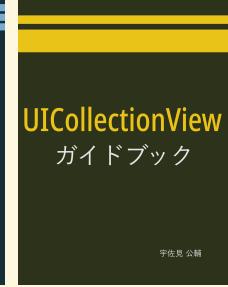
## 自己紹介

- 宇佐見公輔(うさみこうすけ)
- 株式会社ゆめみ / iOSテックリード



Combine と UIKit による iOS アプリ開発







#### Observationフレームワーク

- Swiftで値の変更を監視するためのフレームワーク
- データバインディングの実現
  - ○とくにSwiftUIでの利用を想定
- Swift 5.9で追加された
  - 。iOS 17など最新OSでのみ動作する
  - 将来のデファクトスタンダード

## Swiftにおける値の変更の監視

- KVO (Key-Value Observing)
  - Objective-Cからの機能
- ObservableObject
  - 。 Combineフレームワークの機能
- @Observable
  - 。 Observationフレームワークの機能

#### @Observable

• Swift 5.9で追加されたマクロ機能で実現

```
@Observable
final class Model {
   var value: Int = 0
}
```

• クラスに @Observable をつけると、そのクラスが監視可能になる

# withObservationTracking

```
final class ViewController: UIViewController {
    private let model = Model()
    private func tracking() {
        withObservationTracking { [weak self] in
            guard let self else { return }
            print("value: \(model.value)")
        } onChange: {
            print("onChange")
```

## 変更の監視を開始する

- withObservationTracking のクロージャで監視対象が決まる
  - o model.value を参照 → model.value の値が監視対象となる

## 変更が通知される

• model.value の値が変更されると onChange クロージャが呼ばれる

## 動作の確認

• tracking() を呼び出すと print("value: ...") が呼ばれる

value: 0

• model.value の値を変更すると print("onChange") が呼ばれる

onChange

• なお、この通知は | 回だけ来る

## 監視を継続する

• 再帰的に呼び出すことで、変更の監視を継続できる

## UIKitでの利用例

```
private func tracking() {
   withObservationTracking { [weak self] in
        guard let self else { return }
        label.text = "value: \((model.value))"
    } onChange: {
        Task { @MainActor [weak self] in
            guard let self else { return }
            tracking()
```

## SwiftUIの場合

```
struct MyView: View {
    var model = Model()

    var body: some View {
        Text(model.value)
    }
}
```

- これだけで継続的に値の変更を監視できる
  - o body 内で参照されているプロパティが監視対象になる
  - withObservationTracking の記述は不要

## 不要な監視は発生しない

```
@Observable
final class Model {
   var value1: Int = 0
   var value2: Int = 0
struct MyView: View {
   var model = Model()
   var body: some View {
       Text(model.value1) // value2 の変更では再描画されない
```

#### コレクションの監視

- books への要素の追加や削除を監視してViewを更新できる
- book.title の変更では、該当Viewだけが更新される

## Observableフレームワークの制約

- 構造体には @Observable をつけられない
  - 値型 (構造体) では使えず、参照型 (クラス) で使える
  - 。 Swiftは構造体の値変更を監視するようには設計されてない
- バックポートには対応しない
  - 。 古いバージョンのSwiftUIを対応させるのが難しい

## おわりに

- Observationは既存の方法よりもシンプルで効率的
- SwiftUIとの相性が良い
- 古いOSで使えないのでまだ採用できないが、将来のスタンダード